

ティネとのお別れに駆けつけた
深津選手
(4月24日)



ははだけ
Jサンダーズ広島

竹田 英司

今回は退部が決まったティネ・サトレル監督との思い出を記したい。去年の今頃、初対面のあいさつで「ティネと呼んで」と言われたので、以下、敬愛を込めてティネと表記する。

遠征先の食事会場では、いつも笑顔で話し掛けられた。私が大量のパンとパスタを頬張っていたら、「エディ(竹田)はどう見ても日本人なの



ティネとV果たせず

に、胃袋だけは欧州仕様だな」。それがお約束だった。お約束は試合に勝利した後にもあった。選手とスタッフ全員がハイタッチを交わす際、ティネは「エディさん!」と言いつつ私の腹を軽くパンチ。それが勝利のルーティンだった。

ある時、私はティネが大学院で博士号を取得した研究者だと知った。「ティネ博士」と呼んだら、悲しそうな顔をして「僕とエディの仲じゃないか。そんな他人行儀な呼び方はやめてほしい」と言われたことも思い出す。

そんな気さくなティネが帰国する日、深津旭弘選手と私はティネの自宅にお別れのあいさつに出向いた。思い出話に花を咲かせ、「JTに来てからの3年間で結婚して子どもができた」。さらに私の肩を抱き「これから選手の手世話をよろしく頼むぞ」と言い残して空港に向かった。

優勝してティネを胸上げることができなかったのが何より心残りだ。

(JT広島マネジャー)